

日本女性会議2003おおつ参加報告

男女共同参画社会の実現をめざして、昨年の10月17日、18日の2日間滋賀県大津市で、全国から3500人の参加のもと、「いのちの世紀 びわ湖で輝け女と男」をメインテーマに第20回日本女性会議が開催されました。

● 平等と平和

元文部大臣で元労働省婦人少年局長でもあった赤松良子氏が、「平等と平和の世紀を旨として一女性の自立と政治参画」と題して、基調講演をされました。その中で、プロジェクトXでも取り上げられた「男女雇用機会均等法」をつくった時のことや、「0は良くない。まだまだ少ないと認識することが大事！」と政策決定の場に女性が進出



することの大切さを強調され、そのためには精神的にそして経済的にも自立することが大切だと話されました。「つくるには大変な苦勞を要し辛抱もいるが、壊すのは一瞬であり、戦争でも起きれば平等なんて吹き飛んでしまう。そんなことになってはいけない。そして平和も平等も進んだ今だからこそ、ものを決める場所にもっと参加をして、平和のために発言しましょう。」と激励。故市川房枝先生の『平和なくして平等なし、平等なくして平和なし』という言葉を皆さんと共にかみしめたい。」と締めくくられました。

● 未来につなげていく

内閣府男女共同参画局長の名取はにわ氏をコメンテーターに迎え、「若い世代からみた男女共同参画」をテーマにシンポジウムが行われました。市内の学生や会社員・主婦など若い男女8人がパネラーとして身近にある問題を提起し、解決していくためにはどうすべきかを、提言として発表しました。コーディネーターにより、「若い世代には、もはや男女共同参画は当たり前という意識もあるようだ。しかし、意識調査で女性が女性の上司を嫌がる傾向があったり、女性に現状維持やあきらめの気持ちがあるとの認識があるなど、少し掘り下げてみると、私たち年長世代とあまり変わらないものも根強く息づいていることもわかった。」そして「いかにこれらの問題意識を次世代につなげていくべきか、またそのことこそがわれわれの使命である。」とまとめられ、男女共同参画に携わるうえで「未来につなげていく」ことに意義があると再認識しました。

● 思いを声に

2日目に行われた分科会では、13のテーマ別にいろいろな角度から男女共同参画をとらえ、講演や意見交換・質問も活発に行われ、各会場に参加者の熱気があふれていました。

記念講演では瀬戸内寂聴氏が、動乱の時代を生き抜いた自らの体験談や貿易センタービル的事件をもとに、「恨みの連鎖を断ち切らなければ平和は訪れない」、「世の中を支えるためには男女の協力がなければならない」と話されました。

そして「自分たちが肌で感じとった思いを声にし、次代に残していかなければならない。だから生きている間は、憎まれ口を言っていこうと思っています。」と思いを結ばれました。



詳細は、女性政策推進室に置いてあります「日本女性会議2003 おおつ」をご覧ください。

写真提供：「日本女性会議2003」